

# nab-PTX+Ram

対象	切除不能・進行再発胃癌				
投与順	抗癌剤名	投与量	手技	投与時間・速度	投与日 (d1,d8等)
1	ラムシルマブ	8mg/kg	div	初回: 60min 2回目以降: 30min	d 1,15
2	アブラキサン <sup>®</sup>	100mg/m <sup>2</sup>	div	30min	d 1,8,15
1コース期間	4週間				
総コース数	PDになるまで				
投与開始基準	① 好中球 $\geq 1500/\text{mm}^3$ ② 血小板 $\geq 10\text{万}/\text{mm}^3$ ③ HGB $\geq 8.0\text{g}/\text{dl}$ ④ T-Bil $\leq \text{ULN} \times 1.5\text{倍}$ ⑤ AST、ALT $\leq \text{ULN} \times 3\text{倍}$ (肝転移あり: $\times 5\text{倍}$ ) ⑥ S-Cre $\leq \text{ULN} \times 1.5\text{倍}$ ⑦ 尿蛋白 $\leq 1+$ ( $\geq 2+$ の場合はUTP/Ucre $< 1\text{g}$ であれば可)				
減量規定・中止基準	<p><b>【ラムシルマブ】</b>  <b>&lt;1日尿蛋白量&gt;</b>            ・2g~3g未満            初回発現時: 1日尿蛋白量2g未満に低下するまで休薬し、再開する場合には6mg/kgに減量する。            2回目以降の発現時: 1日尿蛋白量が2g未満になるまで休薬し、再開する場合には5mg/kgに減量する。            ・3g以上、またはネフローゼを発現: 投与を中止する。</p> <p><b>&lt;高血圧&gt;</b>            ① grade <math>&lt; 3</math>            (症状がある場合)            ・症状が消失するまで投与中断し、降圧治療を開始。            ・再投与時には6 mg/kgに減量。更に投与を延期する場合、2回目の再投与時には5 mg/kg に減量。            ② grade 3 (収縮期血圧 <math>\geq 160</math> or 拡張期血圧 <math>\geq 100</math>)            (症状がない場合)            ・強力な降圧療法を併用し、2Wを越えても値が改善しない場合は投与中断。            (症状がある場合)            ・強力な降圧療法を併用し、症状が消失するまで投与中断。            ・再投与時には6 mg/kgに減量。更に投与を延期する場合、2 回目の再投与時は5 mg/kg に減量。            ③ grade 4            投与中止&lt;高血圧&gt;            ・症候性のGrade2、またはGrade3以上の高血圧: 降圧剤による治療を行い、血圧がコントロールできるようになるまで休薬する。降圧剤による治療を行ってもコントロールできない場合には、投与を中止する。</p> <p><b>【アブラキサン<sup>®</sup>】</b>            第1段階減量は80mg/m<sup>2</sup>            第2段階減量は60mg/m<sup>2</sup>  <b>下記の項目が見られた場合、回復をを待って、次回減量して投与を再開</b>            ① 好中球 <math>&lt; 500/\text{mm}^3</math>            ② 血小板 <math>&lt; 2.5\text{万}/\text{mm}^3</math>            ③ 発熱性好中球減少症            ④ Grade 3以上の末梢神経障害/粘膜炎・下痢/非血液毒性(脱毛除く)            ⑤ Grade 2以上の皮膚障害</p>				
2コース目以降・コース内の投与開始基準	<p><b>【ラムシルマブ】</b>            ①尿蛋白: 1+以下 (2+以上の場合、定量検査(UTP/Ucre)で2g未満であれば投与可能とする)            ②ラムシルマブに起因する副作用: Grade1以下またはベースラインまで回復している (高血圧、静脈血栓塞栓症イベント、蛋白尿を除く)</p> <p><b>【アブラキサン<sup>®</sup>】</b>            ①好中球 d1: <math>1500/\text{mm}^3</math>以上、d8,15: <math>1000/\text{mm}^3</math>以上            ②血小板 d1: <math>10\text{万}/\text{mm}^3</math>以上、d8,15: <math>7.5\text{万}/\text{mm}^3</math>以上            ③血清Cr d1: <math>\text{ULN} \times 1.5\text{倍}</math>以下            ④総Bil <math>\text{ULN} \times 1.5\text{倍}</math>以下            ⑤肝機能(AST・ALT) <math>\text{ULN} \times 3\text{倍}</math>以下 (肝転移を有する場合は5倍まで許容する)            ⑥ 末梢性感覚ニューロパチー Grade2以下</p>				
コース間での休薬の規定	d15でアブラキサン <sup>®</sup> をスキップしても休薬期間は短縮しない。				
投与量の増量規定	なし				
注意すべき副作用	末梢神経障害、骨髄抑制、高血圧、蛋白尿、上部消化管出血				

nab-PTX + Ram

1コース期間  
所要時間

28日  
day1⇒2時間15分、day8⇒1時間、  
day15:1時間45分

ルート	Rp	薬剤名	標準投与量	投与方法	投与速度	d1	d8	d15
主管	1	カイトリルバッグ 100mL デカドロン注 6.6mg ★主管よりフィルター付で投与 ★レスタミン錠50mg内服 またはボララミン注1Aを追加		div	15min	○		○
	2	生食 250mL サイラムザ 【 】mg ★主管よりフィルター付で投与	8 mg/kg	div	初回:60min 2回目以降:30min	○		○
	3	生食 50mL ★主管よりフィルター付で投与		div	全開	○		○
側管	4	生食 50mL ★Tポートよりフィルターなしで投与 ★ルートキープ用		div	15min	○		○
	4'	生食 100mL デカドロン注 6.6mg		div	15min		○	
	5	生食100mL 【 】mL※ アブラキサン <sup>®</sup> 【 】mg ※生食量=アブラキサン <sup>®</sup> 量(mg)×0.2 ★Tポートよりフィルターなしで投与	100 mg/m <sup>2</sup>	div	30min	○	○	○
	6	生食 50mL ★Tポートよりフィルターなしで投与		div	15min	○	○	○

コメント

Rp1～3投与时：蛋白質透過型フィルター(0.2又は0.22ミクロン)を使用。内服困難な場合は、レスタミン錠内服をボララミン注(5)1Aに変更。

Rp4・4'～6投与时：フィルター使用不可。

⇒day1・15:フィルター付ケモ用Y字ルートを使用して主管でRp1～3を投与後、側管にフィルターなしのケモ用Y字ルートを繋ぎ(主管のフィルターより下に繋ぐこと)、Rp4～6を投与する。

G1-2のInfusion reactionが出現した場合、次回以降、上記前投薬にカロナール600mgを追加し、サイラムザ点速を50%減速する。

サイラムザは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間に短縮できる。

サイラムザ調製後、室温(30℃以下)12hr以内、冷所保存(2～8℃)24hr以内に使用する。

\*Rp.5. 生食:[アブラキサン<sup>®</sup>量【 】mg × 0.2]mLとする。

\*アブラキサン<sup>®</sup>は特定生物製剤(血液製剤)処方箋を使用する。

Reference:

A phase II study of nab-paclitaxel in combination with ramucirumab in patients with previously treated advanced gastric cancer  
Hideaki Bando et al, European Journal of Cancer, Vol91, p86-91, 2018